

参考資料③

アドバイザーからの意見と対応（意見聴取：第3回アドバイザー会議にて）

（アドバイザー：五十音順）

アドバイザー	意見	事務局対応
きむらしのぶ氏	<p>【人材育成について】 職員が片手間で学んだ知識でベンダーとやり取りするのはやはり難しい。専門人材が入るのはやはり必要だと思う。</p>	<p>ITコンサルタントとも相談し、職員が調達プロセスをきちんと遵守できるよう研修するとともに、必要に応じて専門人材を効果的に活用することも検討していく。</p>
	<p>【人材育成について】 「ベンダーと協議ができる」というスキルは正直ITパスポートよりも難易度は上だと思う。目指すリテラシーで定めるレベル感が、実際に求めるスキルとまちなわないのではないか。</p>	<p>ご意見を踏まえ、求めるスキルを整理して文言を修正。（デジタル市役所計画のP.9「3.3.1 松江市がめざす職員のITリテラシーのあり方」）</p>
	<p>【人材育成について】 全ての職員が必ずスキルを付けなくても、ベンダーと職員の間で立ってそれぞれの視点や考えを仲介する人材がいればよいのではないか。</p>	<p>ご意見を踏まえ、取組を進めつつ、どのように専門人材が関わっていくのか検討していく。</p>
	<p>【人材育成について】 職員側のスキルの底上げも大事だが、専門人材も取り入れないとなかなか取組は思うように進まないと思う。</p>	<p>計画の進捗管理や見直し時に、必要に応じてデジタル専門部署が専門人材に意見を求めることを計画に追記する。（デジタル市役所計画P.12「V 推進体制」）</p>
	<p>【人材育成について】 （できるか分からないが）ベンダーとシステム構築をする時に、特に若手職員を1人でもベンダーへ出向させるなどして、ベンダーがどんな視点を持ってどんな流れでシステムを作っているのか学ぶと、どんなポイントを押さえて一緒にシステム導入していけばよいのかが、より身につくのではないかと。</p>	<p>ご意見を踏まえ、検討する。</p>
	<p>【実施計画について】 自治体の多くが「需要の分からない」新しいシステムを作って、あまり使われずに無駄になるという失敗がよくある。 取組にも「～～システムの整備」というような文言が見受けられるが、同じ轍を踏まないか心配。 まずはプロトタイプを作り、検証してから本格導入という流れをきちんと押さえておくことが大事。</p>	<p>ご意見を踏まえ、十分な検証を行ってからの本格実施を念頭に取組を進めていくこととする。</p>

アドバイザー	意見	事務局対応
角 勝氏	<p>財政的な裏付けがあると良い。 デジタル化の取組を進めるための財源をちゃんと確保できるよう情報政策推進室が間に入り一緒に調整したり、計画で何か明文化できると理想的。</p>	<p>ご意見を踏まえ、計画の実現性を高めるために今後関係課と相談し検討する。</p>
	<p>文書のデジタル化については、法律や条例、その他要項があり、様式を変えたり押印を廃止するのはとても大変な作業。 行革や総務とも連携し、情報政策推進室がサポートするのでぜひ取り組んでほしいと言えると思います。</p>	<p>ご意見を踏まえ、計画の実現性を高めるために今後関係課と相談し検討する。</p>
	<p>デジタル化の取組を積極的に推進し、実績を出した部署を評価する仕組みがあるととても良い。(人事評価とかに跳ね返るとやる気が上がるかもしれないけど、すぐやるのは難しいかもしれない。)</p>	<p>ご意見を踏まえ、計画の実現性を高めるために今後関係課と相談し検討する。</p>
中田 光俊氏	<p>【業務の効率化について】 職員の効率化をもっと強調してもよいと思う。</p>	<p>職員個人の働き方も効率化していく、ということを強調するため文言を一部修正。(デジタル市役所計画P.7「3.2業務の効率化」)</p>
	<p>【業務の効率化について】 RPAについては、もっと積極的に具体的な導入を決めて進めるべき。RPAを入れると入れないとは省力化に大きな差がある。</p>	<p>今後、業務効率化の取組(行政手続きのオンライン化やRPAの活用)の中で、具体的にどのように取り入れるか、関係課やITコンサルタント等専門家に相談しつつ進める。</p>
	<p>【業務の効率化について】 市民サービスを良くした結果、様々な申請やデータが市に来ると思うが、それを効率的に処理する仕組みが無いと職員が疲弊してしまう。中でうまく処理を回す仕組みはどうしていくの</p>	
	<p>【業務の効率化について】 若手のワーキングで取り組むのもいいが、市全体で予算をつぎ込んで積極的に業務の効率化・省力化を進めるべき。</p>	<p>費用対効果を十分に考慮し、松江市の業務の効率化にとって最適な仕組みを選定して、必要なものはきちんと予算を取って推進していく。</p>
	<p>【業務の効率化について】 自分がDXについて講演する際に伝えているのは、①ツール(RPAなど)の導入、②制度変更、③意識改革の3つのポイント。①はすぐにでも始められることで、②も手続きを踏んでできる。③は時間がかかるので少しずつ進めていく、という話をしている。</p>	

アドバイザー	意見	事務局対応
中田 光俊氏	<p>【実施計画について】</p> <p>リストについて、「達成すべき状態」に印がつけてあったが、市民目線としては、こういうリストはそんなに要らないかもしれない。</p> <p>取組の優先順位が分かるものであれば、まだ作る意味もあるかもしれない。</p>	事務局としては、リストがあった方が取組を確認する上で役立つことから掲載することとする。
	<p>【実施計画について】</p> <p>取組がとりあえず並べてある印象だが、特に重要なものは分かるようにするなど、取組に濃淡をつけた方がよいのでは。</p>	
	<p>【実施計画について】</p> <p>インターネット上で市民が見るときに、取組をダイレクトに検索しやすいのが良い。最近スマートフォンで直接「松江市 ●●（事業や分野など）」と打ち込んで検索する人が多いので、ホームページに入って探す方式より、検索して目的の取組シートが出てくるような形がよ</p>	ご意見を踏まえ、検索しやすくなるよう、ホームページ掲載時の掲載の仕方を工夫する。（取組シートを個別に掲載して、PDFがすぐに検索できるようにするなど）
	<p>【実施計画について】</p> <p>実施計画を読むと、授業を受けているような感じで、あまり多くの字を読まない一般市民の方は読んでくれなさそう。もっと簡潔にイラストで何をするのが分かる方が伝わりやすい。（経産省の資料は自分も参考にしているが、文章量が少なく、イメージ図や写真が使われて、何をするのが分かりやすい）</p>	今後、取組を進めつつ、内容が市民により伝わりやすい工夫をしていく。
野田 哲夫氏	推進体制も重要になってくると思うが、このP.10の組織が庁内でどれくらいの権限を持つのか見えてくると良い。	デジタル化に関することは、推進体制にあるデジタル推進委員会及びデジタル専門部署が所掌し、各課の取組のとりまとめ等を行う。
長谷川 陽子氏	（林氏の意見をふまえ）部署のアドレスの方が利用に適している業務を行っている所、個人アドレスの方が利用に適している業務を行っているところで、すみ分けをすると良い。	ご意見を踏まえ、関係課と連携して課題解決に取り組む。
	廣富氏の意見にもあったが、「みんなに」「やさしい」「ちょうどいい」の言葉の定義を載せてであると良い。	ご意見を踏まえ、計画に定義を追加。（デジタル市役所計画のP.2「2.1 計画策定の趣旨」及びP.4「2.4 計画の目標」）
	実施計画のリストについて、例えばどの世代に関連する取組なのか、という基準で10代から各年代でカテゴライズして並べると、市民にも伝わりやすいと思う。	検討の結果、年代によるカテゴライズではなく、分野別（窓口・届出、子育てなど）で並べることにする。
	個別の話だが、家族の介護をしている身をしては、介護サービスに係る様々な手続きが紙媒体で押印を求められるものがとても多く、非常に負担に思っている。 実施計画の取組に「介護」の文字がなかったが、この辺りもぜひ取り組んで欲しい。	ご意見を踏まえ、実施計画の進捗管理や見直しのタイミングで取組を盛り込めるよう、関係課と検討することとする。

アドバイザー	意見	事務局対応
林 郁枝氏	松江市総合計画のどの部分とどう連動するのが、もっと分かったら良い。	ご意見を踏まえ、計画に文章を追加。（デジタル市役所計画のP.3「2.3 計画の位置づけ」）
	「Ruby City」とはあくまでビジネスにおけるプロモーションという意味合いが強いと感じており、デジタル化は必ずしもRubyでなくても良いと思う。	あくまでRubyに限定せず、効果的なシステム導入を行っていくこととする。
	個別の取組の話だが、グループウェアの改善は重要で、個人のアドレスが使えない今の状況は課題であると外部から見ていると思う。ただ、内部からは課題として挙がっていなかったため、外部の視点も取り入れつつDX推進部門を中心に課題として解決に向かっていくと良いのではないかと。	ご意見を踏まえ、関係課と連携して課題解決に取り組む。
廣富 哲也氏	「みんなにやさしい」や「ちょうどいい」はとても良いコンセプトだが、人によって受け取り方がバラバラになりやすい言葉だと思う。 「みんな」とは誰か、「やさしい」とはどんな風なのか、「ちょうどいい」とはどんな状態なのか、伝わりやすく定義するともっと良いのでは。	ご意見を踏まえ、計画に定義を追加。（デジタル市役所計画のP.2「2.1 計画策定の趣旨」及びP.4「2.4 計画の目標」）
	「カンバン方式」を取り入れた進め方については、どれくらい市の取組が進んでいるのか、市民に共有するのに分かりやすいやり方だと思う。 もっと市民にも共有するという視点を入れていくと、市民・職員みんなにとって「ちょうどいい」やり方である、と言えるのではないかと。	ご意見を踏まえ、計画に文章を追加。（デジタル市役所計画のP.10「IV 具体的な取組と手法」）
森本 登志男氏	デジタル化のための組織を作り、計画を策定した後に肝心なのは、どう進捗していくかということ。 すべての取組を同じ間隔（例えば2～3か月、半年など）で管理するのは、内容によっては馴染まないかもしれない。取組毎に確認するペースを決めて報告させるのも良いかもしれない。 とにかく大事なことは、期間を決めて細かく管理するのをルーティン化させること。	ITコンサルタントとも相談しつつ、効果的な進捗管理の手法を定めて、細かいスパンで進捗状況を確認していくこととする。
	トップ（ICT推進委員会と言うと副市長）が置かれているのは、各担当課にきちんと取組を進めさせるために発破をかけるという意味もあると思う。トップがデジタル化に対して関心を高く持ち、各部署の取組の進み具合はどうか、もっと推進しなければいけないのではないかと、全体のお尻を叩くくらいが良いのではないかと。	組織全体のデジタル化に向けたマインド醸成は、今後も積極的に進めていく。
	現場が課題感を持つことも非常に大切。特に各部署の若手職員や非正規職員が内心持っている課題や意見（日頃の業務で感じるムダなど）を吸い上げる仕組みづくりは大事。	今回の計画策定における手法（チャットツール・アンケートフォームの活用）などを参考に、職員が意見を言いやすい仕組みづくりを検討する。